

おすすめ本紹介

◆テーマ◆

クリスマス・ストーリー

●賢者のおくりもの

オー・ヘンリー文 リスバート・ツヴェルガー画 矢川澄子訳 富山房

クリスマス・プレゼントにまつわるとても有名な物語。貧しい若夫婦が、お互い相手を喜ばせようと用意したプレゼント、それはいったいどんなもの？ この本の表紙に描かれた女性の長い髪は、そのプレゼントを暗示しています。

著者のオー・ヘンリー(1862-1910)は、短編の名手として名高いアメリカの作家。もともと銀行員でしたが、横領罪で起訴され、服役中に小説を書き始めたという、ちょっと変わった経歴の持ち主です。

「賢者の贈り物」は、日本でもいろいろな形で書籍化されています。ここでは、リスバート・ツヴェルガーの絵がとても美しい絵本を紹介してみました。

●クリスマス・キャロル
(光文社古典新訳文庫)

ディケンズ 著 池 央耿 訳
光文社

時は19世紀、イギリスのあるクリスマス・イブのこと。欲張りで冷酷な老商人・スクルージのところへ、死んだ友人の幽霊が現れ、「これからおまえのところに3人の幽霊が訪れるであろう」と告げました。恐れおののくスクルージ。実は3人の幽霊たちには目的があったのです。果たしてその目的とは？

イギリスの作家チャールズ・ディケンズ(1812-1870)の代表作。この物語が出版されると大評判となり、ディケンズは、毎年クリスマスの頃には、クリスマスを題材にした小説を発表しました。これらも評判を呼び、ディケンズをサンタクロースと同一人物と思う人までいた、という話も伝えられています。

●グロースターの仕たて屋

ビアトリクス・ポター作・絵
いしいももこ訳
福音館書店

グロースターの街に住む年とった仕たて屋は、貧しくてさみしい身の上でした。同居人はネコのシンプキンだけ。

クリスマス前のある日のこと、この仕たて屋のもとに、グロースターの市長から上着とチョッキの注文が舞いこみます。クリスマスまでに仕上げなくてはなりません。豪華な布を裁断してその日は家に帰った仕立て屋でしたが、そのまま病気で寝込むことに…。

そして迎えたクリスマスの朝、仕事場に行くと、驚いたことに上着とチョッキが出来上がっていたのです。ボタンホールをひとつだけ縫い残して。いったいだれが…？

ビアトリクス・ポター(1866-1943)の小さな絵本「ピーターラビットのおはなし」シリーズの1冊です。